



お客様情報



ニッセイ情報テクノロジー株式会社

●本社所在地
東京都大田区蒲田5丁目37番1号
ニッセイアロマスクエア
<http://www.nissay-it.co.jp/>

ニッセイグループのIT戦略を担う会社として1999年に誕生。以降、日本生命およびグループ各社の情報システム構築を通じて長年培ってきた豊富な業務経験をベースに高度な技術力と業務ノウハウを蓄積し、生命保険業務の中核である販売・管理、資産運用の各ソリューションを広く提供している。また、保険業界と関係の深い医療・介護領域を成長事業の柱に据え、新しいビジネスモデルの創出にも挑戦している。

ニッセイ情報テクノロジー株式会社

日本生命における基幹Webシステムの
開発・テスト向け環境をプライベート・クラウドで構築
IBM Power Systemsと
Tivoli Service Automation Managerの活用により、
プロジェクトのリスク低減とサービス品質の向上を目指す

ニッセイ情報テクノロジー株式会社(以下、NISSAY IT)は、日本生命保険相互会社(以下、日本生命)における基幹Webシステムの構築プロジェクトを推進するにあたり、クラウド・コンピューティング技術をベースとした新たな開発・テスト環境を導入し、2010年9月の稼働に向けて準備を進めています。その最大の特長は、あらかじめ必要なIT資源を設計し確保する従来の環境と、変化に応じ柔軟に資源を割り当てるクラウド・コンピューティング環境とを共存させること。クラウドの活用によって開発・テスト環境の構築時間を短縮すると同時に、IBM Power Systems™の仮想化技術により、進行中のプロジェクトへの影響を与えずに、サービス品質の向上を目指します。

プロジェクト開発への影響なしに、 効率的な資源配分と管理負荷低減を実現したい

NISSAY IT は、信頼性・効率性が高度に求められる日本生命グループの大規模なシステムの開発・運用に携わる中で培ってきた技術力と業務ノウハウを強みとして、保険関連や資産運用関連のソリューションを広く提供しています。

同社は現在、日本生命における基幹Webシステムの開発およびテスト環境向けの基盤の構築に取り組んでいます。NISSAY ITの基盤ソリューション事業部 ITソリューションブロックの上席プロジェクトマネージャーである松島英樹氏は、このプロジェクトを次のように紹介します。

「日本生命様のシステム開発は、大きく『インフラ』『事務』『商品』の3種に分かれ、それぞれのライフサイクルに沿って対応してきました。ところが今回は、それら3つで同時に開発や更新作業が発生する、かつて経験したことがないような大規模で難しいプロジェクトとなります」

そこで大きな課題となるのが、開発やテストにおけるIT資源の確保です。

「当然のことながら、開発・テストには綿密な計画を立てて臨みますが、ピーク時にはどうしても資源が不足しがちです。これまで不測の事態が起こった場合、昼夜二交代の人海戦術で乗り切るなど、作業担当者には多大な負荷が



基盤ソリューション事業部
ITソリューションブロック
上席プロジェクトマネージャー
松島 英樹氏



かかっていました。特に今回は規模が大きくスケジュール調整が難しいだけに、この課題をいかに解決するかが悩みでした」
そこで同社が検討したのが、クラウド・コンピューティング環境の導入です。CPU、メモリー、ストレージなどのIT資源を仮想化されたプールに集約することで効率的な活用を実現するクラウド・コンピューティング技術により、開発・テスト環境の需要を予測し、資源を調達して備える（プロビジョニング）時間を大幅に短縮することが可能となります。

このメリットに着目したNISSAY IT 基盤ソリューション事業部 ITソリューションブロックの山田啓人氏は、基本とした方針を次のように説明します。

「一般的に大規模プロジェクトでは、まずインフラの部分の構築が先行し、業務やアプリケーションの仕様策定や構築が後になる傾向があります。そこで、要件が定かな“堅い”部分の開発・テストは従来どおり固定の資源を割り当て、一方、不確定要素の多い“柔らかい”部分はクラウド技術を活用して柔軟に環境を用意できるようにしたいと考え、日本生命様の合意を得た上で具体的な検討を開始しました」



基盤ソリューション事業部
ITソリューションブロック
専門職
山田 啓人氏

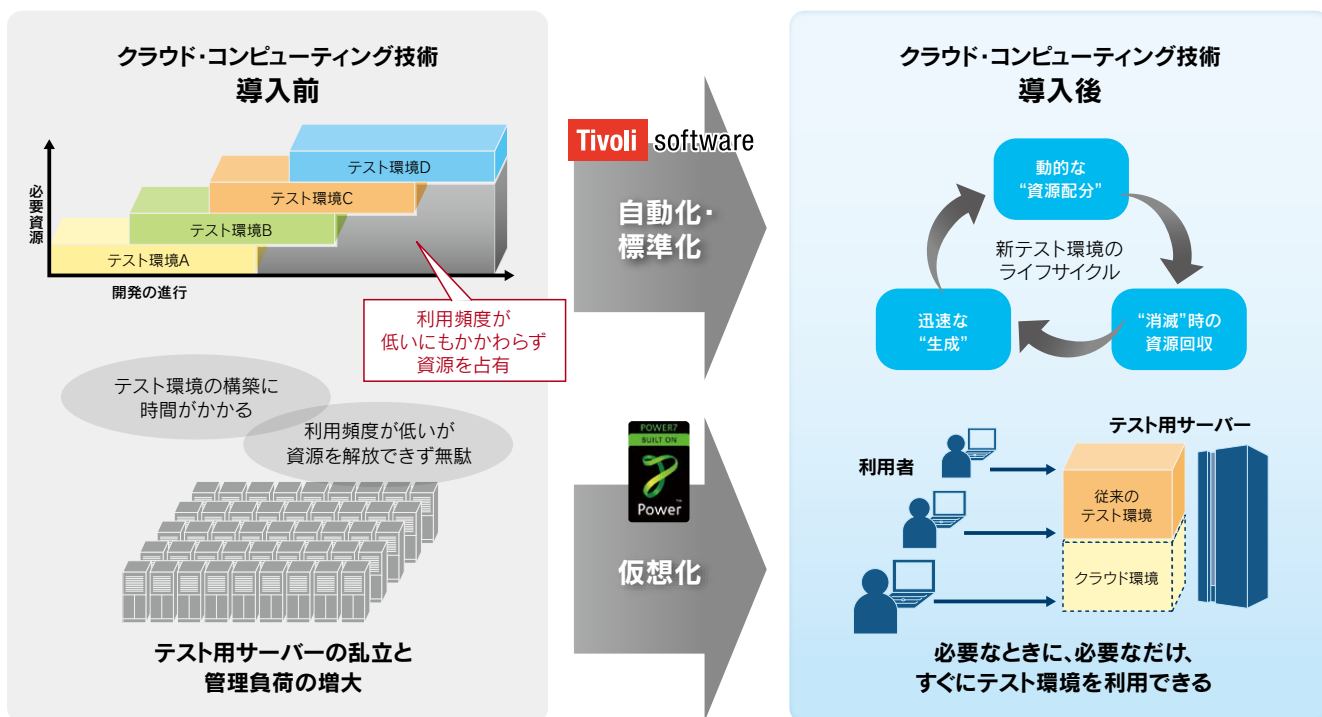
固定のIT環境と クラウド・コンピューティング環境を共存させ、 双方のメリットを生かす

もちろん、NISSAY ITは最初から「クラウドありき」で考えたわけではありません。今回のプロジェクトは、日本生命の根幹に位置する重要なシステムを対象とするものであり、開発・テスト環境の品質基準において一切の妥協は許されません。「これまでどおりの高い性能や信頼性を維持しつつ、プロジェクトのリスクを低減していく」(松島氏)ことを絶対条件としていました。

そこにIBMから提案を受けたのが、本番環境と同じハードウェアである「IBM Power Systems」と運用管理ソフトウェア「Tivoli® Service Automation Manager (以下、TivSAM)」を組み合わせたソリューションです<図>。

1台の物理サーバーに最大1,000個の論理区画を設定できるPower Systemsの優れた拡張性を活用することで、固定化された従来型の開発・テスト環境に加え、クラウド・コンピューティングをベースとする環境の共存を実現します。また、TivSAMが提供するワークフローや標準テンプレートなどの申請機能を活用することで、プロジェクトに参画する各チームは、開発・テストのために必要な資源を容易かつ柔軟に確保することが可能となります。さらに、維持管理フェーズにおいても保守・運用が円滑に進められるように、構築時から維持管理まで同一要員がサポートし、IBMのスキルとノウハウを展開するという提案がなされました。

クラウド・コンピューティング技術 導入効果の概要図



NISSAY ITがこの提案を採用した背景には、これまで同社が仮想化技術の実績を積んできた点が挙げられると松島氏は説明します。「当社は多くのPower Systemsを導入し、VIOS (Virtual I/O Server) やマイクロ・パーティショニング、ストレージ、SANブートなど、インフラの仮想化を支えるさまざまな技術を活用してきました。その結果、徐々に便利になり、理想に近づいてきたと感じていましたが、まだ環境準備に時間を要しており、いい解決策がないかとずっと考えていました。そんな矢先にいただいた提案の骨子は、まさにやりたかったことでした」

さらに、基盤ソリューション事業部 ITソリューションブロックのプロジェクトマネジャーの大倉修二氏は次のように評価します。

「私たちが新しい技術を導入する上での判断基準は、それがどれほどお客様に喜んでいただける、高いバリューを提供できるものであるかという点にあります。長年にわたって日本生命グループに密着してサポートを行い、私たちの文化もシステムも熟知しているIBMだからこそ提案が可能だったソリューションだと思います」



基盤ソリューション事業部
ITソリューションブロック
プロジェクトマネジャー
大倉 修二氏

開発・テストに必要なリソースが数時間で準備可能に。 運用負荷も低減

クラウド・コンピューティング技術を取り入れた新しい開発・テスト環境の構築は2010年5月に始まり、いよいよ9月から稼働を開始する予定です。

具体的には、新たに導入したIBM Power 780サーバーに搭載されたPOWER7[®]プロセッサのうち、固定用の開発・テスト環境と柔軟に資源を提供するクラウド・コンピューティング用の環境として、相互に能力割り当てを自動調整しながら活用するというシナリオのもと、準備を進めています。そして、クラウド・コンピューティング環境の資源を要求に応じて迅速に準備し、動的に割り当てていく上で重要な役割を担うことになるのがTivSAMです。

「これまでサーバー上に新たな論理区画を作成して稼働させるまでには、OSやミドルウェアのインストールのほか各種の設定作業が必要であり、多くの手間と時間を要していました。TivSAMを適用することで、定型化された構築ステップの自動実行とともに、作成された複数の論理区画を一元管理することが可能となります。これにより、開発・テスト環境のプロビジョニングから不要になった資源の回収まで、一連の管理作業は大幅に簡略化できると考えます。また運用の標準化により、スキルの平準化という効果も期待

できます」と山田氏は話します。

新たなサーバーやストレージなどの機器調達を含む場合、ベンダーへの見積もり依頼や社内稟議、機器設置などの事前プロセスも必要となるため、ユーザーが要求したIT環境を実際に使えるようになるまでに通常1ヵ月程度かかります。

「今回導入したクラウド・コンピューティング環境のもとでは、数時間で必要な開発・テスト環境を用意できるようになると見込んでいます」と松島氏は、その絶大な効果に期待を寄せています。

実践に向けて クラウド・コンピューティング環境の 効率的な運用方法の検討へ

2011年1月以降、さまざまなアプリケーションの開発・テスト作業が本格化することが予定されており、そこに向けてより効果的にクラウド環境を活用していけるよう、NISSAY ITでは周辺環境の整備を進めていく計画です。

「今後、開発やテストの案件が集中して舞い込んできた際にも、効率よく論理区画を配分できるようにルールを決めたり、TivSAMのワークフローをどのように使っていくかについて運用面の検討をしていく必要があります」と山田氏。

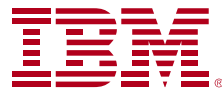
また、大倉氏も「生命保険や銀行などの金融系企業は、徹底した信頼性を重視するがゆえに、“動的”や“柔軟”といったキーワードには警戒心を持ちます。そうした中で行われた今回のクラウド・コンピューティング環境の導入は、それを認めていただいた日本生命様にとっても大きなチャレンジに他なりません。私たちは、その期待に応えていかななくてはなりません」と意を新たに話します。

そうした意味でも急がれるのが、NISSAY IT内部におけるクラウド・コンピューティング環境に対するスキルアップとノウハウの蓄積です。

「日本生命様では、今回のプロジェクトの対象となっている基幹Webシステム以外にもさまざまなシステムを構築・運用しています。私たちが率先してクラウド・コンピューティングのスキルを高めることは、これらのシステムのメンテナンスやリニューアルにも役立つと考えられます。さらに将来的には、そうした中で培ったノウハウをもとに、プライベート・クラウド環境の構築サービスを広く提供していく外販ビジネスへの展開も視野に入ってきます」と松島氏は、今後を見据えています。

導入製品

- IBM Power 780
- IBM Tivoli Service Automation Manager



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

© Copyright IBM Japan, Ltd. 2010

All Rights Reserved

07-10 Printed in Japan

IBM、IBMロゴ、ibm.com、POWER7、Power Systems、Tivoliは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

このカタログに掲載されている情報は2010年7月のものです。事前の予告なしに変更する場合があります。

本事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は初掲載当事のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。

事例は特定のお客様での事例であり、すべてのお客様について同様の効果を実現することが可能なわけではありません。

製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはIBMビジネスパートナーの営業担当員にご相談ください。
